

滋賀県立 精神医療センターたより

第50号

令和8年
3月発行

Contents

- 依存症治療拠点機関としての取り組み 他施設見学報告
- 滋賀県作業療法学会において、ポスター発表を行いました
- 第12回成人発達障害支援学会東京大会にて
- 産業保健分野へ普及啓発活動
- 令和7年度依存症対応研修を開催！
- アクセス・受診案内



依存症治療拠点機関としての取り組み 他施設見学報告

当センターは設立当初の平成4年より、政策医療としてアルコール含む薬物依存症診療に取り組んできました。令和元年度にアルコール依存症、令和2年度に薬物依存症およびギャンブル等依存症における滋賀県の依存症治療拠点機関および依存症専門医療機関に選定されています。

現在、当センターでは、より効果的な依存症診療体制に向けての検討を始めています。

昨年12月に医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士のチームで、全国的にも先進的な依存症診療に取り組まれている新潟県の独立行政法人国立病院機構さいがた医療センターさま、埼玉県の地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立精神医療センターさま、神奈川県の独立行政法人国立病院機構久里浜医療センターさまへ見学に行きました。

いずれの病院も「依存をやめさせる」ことのみにとらわれない多職種連携によるプログラムを含めた診療に取り組まれていました。また、医療だけで完結するものではなく、医療以外の分野との連携も不可欠であることを改めて実感いたしました。

見学で得た知識や学びを基に当センターにおける依存症診療の見直しを行い、質の高い依存症診療の提供を目指します。

医局 濱川 浩

当センターは滋賀県におけるアルコール健康障害・薬物依存症・ギャンブル依存症の依存症専門医療機関および、依存症治療拠点機関に選定され、外来治療、入院治療を行うとともに、治療プログラムを取り入れています。

今回、当センターにおける依存症医療の充実を図ることを目的として、先行的な取り組みを行っている3施設を見学し、各施設の治療プログラムの構成や多職種・多機関との連携体制について学ぶとともに、他施設の職員との情報交換や意見交換を通じた交流の機会を得ることが出来ました。

他施設では、遊びや体験、コミュニケーションに重きをおいた体験型のプログラムが中心の構成となっていました。また、入院期間や治療プログラムへの参加について、自由選択制を持たせた運用が行われている施設もありました。見学および交流を通じて、依存症治療におけるやりがいや支援に向き合うモチベーションにつながる貴重な機会となりました。

依存症とは孤独の病、人を信じられない病とも言われています。しかし、回復できる病気です。

他施設の見学を通じて得られた知見を踏まえ、患者さん一人ひとりの意思決定を支えながら、支援や医療とのつながりを重視した診療の在り方について、検討・見直しを進めていきたいと考えます。

外来 志村 貴子



さいがた医療センターにて、
意見交換風景



埼玉県立精神医療センターの正面



久里浜医療センターにて、
意見交換風景

滋賀県作業療法学会において、ポスター発表を行いました

第20回となる今学会のテーマは「臨床をもっとゆたかに ～リーズニングで深めよう作業療法～」で、第19回の発表に引き続き「ワーク・ライフ・インテグレーション」に関する発表を行いました。これは、ワークとライフの相乗効果による個人の生活の質や充実感、幸福感の向上が企業組織や社会全体の福利の増進につながるという概念を指し、ワーク・ライフ・バランス（ワークとライフが調和し両方が充実している状態）とは異なるものです。今回ワークを「精神科作業療法の実践」、ライフを「作業療法士自身の出産・育児経験」として検討を行いました。参加者からは、ワーク・ライフ・インテグレーションに関する質問のほか、自身の性別・生活経験と異なる視点はわからないことが多い（ので、不安に思う、聞いて初めて知ることがある）等のコメントを頂き、新たな視点として関心を寄せられている印象を受けました。

今後も検討を続けるとともに、作業療法士自身の生活経験を作業療法の実践に活かしていきたいと思えます。

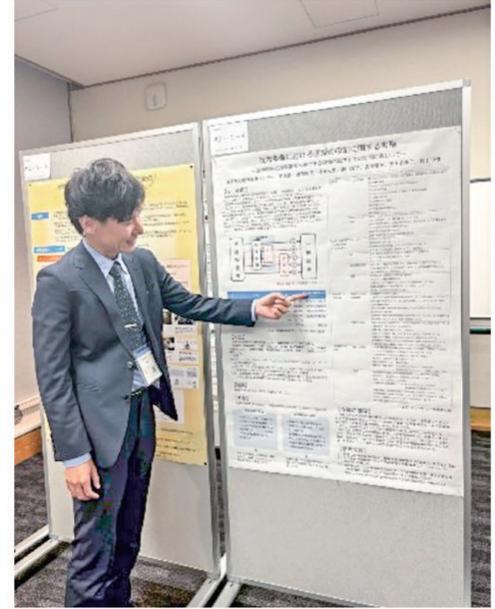
作業療法士 高橋 裕子

第12回成人発達障害支援学会東京大会にて

第12回成人発達障害支援学会東京大会にて「就労準備における医療の役割に関する考察」というテーマで発表いたしました。当センターのデイケアでは就労の準備にも力を入れています。近年福祉サービスの資源が充実している中、医療が担うべき役割について再考する必要があると考えています。

研究に際して多くの事業所様から貴重なご意見をきかせていただき、また、発表では企業との連携や福祉サービスとの連携についてなどご意見をいただき非常に深い学びとなりました。今後とも県立病院として求められる役割を意識しながらデイケアをバージョンアップしていきますので、よろしくお願いいたします。

作業療法士 中重衛



産業保健分野への普及啓発活動

昨年12月16日、東レ株式会社滋賀事業場・健康管理センターさまのご協力をいただき、「忘年会シーズン、お酒の席はだれもが楽しく！～お酒に呑まれないコツ～」というタイトルで、同社従業員さま向けのセミナーにてお話をさせていただく機会をいただきました。



当日は、オンライン参加も含めて100名程ご参加いただきました。アルコールパッチテストの体験とあわせて、お酒の取説についてお話をさせていただいたのですが、大半の方が「初めて聞いた」との感想をいただきました。

お酒による健康被害は、時として、職場の安全管理に波及することもあります。

メンタルヘルスにおける早期介入について発信する機会をいただけたことはとても貴重でした。

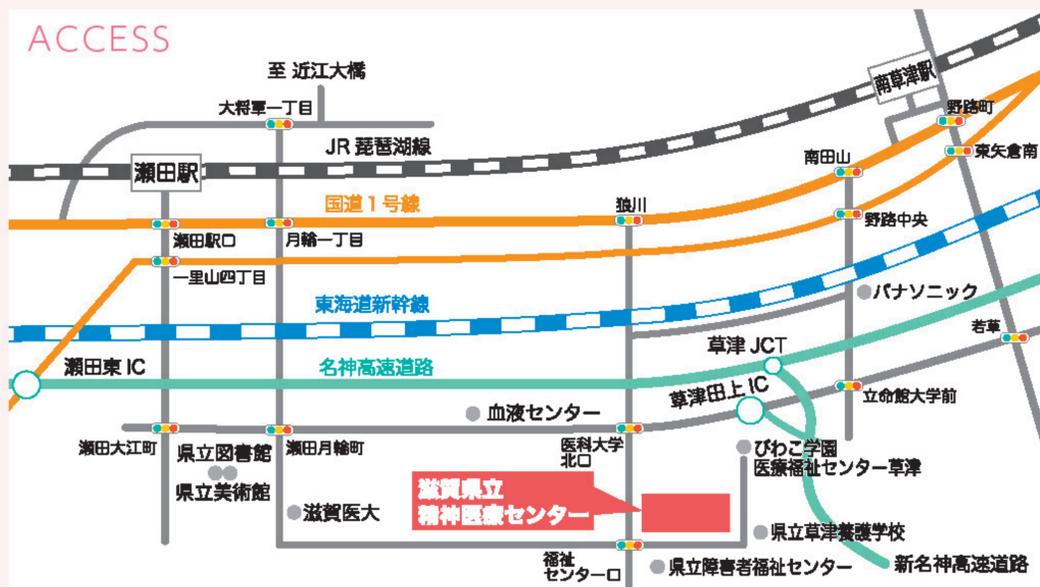
令和7年度 依存症対応研修を開催!

当院は、滋賀県依存症治療拠点機関として、研修等の企画実施を通して県内の医療の質および連携の向上に取り組んでいます。今年度のアルコール健康障害・薬物依存症・ギャンブル等依存症に関する依存症対応研修は、独立行政法人国立病院機構さいがた医療センターSai-DAT(サイダット)チームに、さいがた医療センターで行われている依存症全般の治療について講演をお願いしました。

前半は、各職種の視点で取り組んでいることを紹介していただき、後半は参加者からの質問を軸にシンポジウムを実施しました。土曜日開催にもかかわらず、43名の医療従事者の方に参加いただきました。

Sai-DATでは、「自己治療仮説」「信頼障害仮説」を治療理念とし、多職種チームで対象理解・信頼関係を大切に、非対決的でゆるやかに関わり、楽しく遊ぶ体験型の治療プログラムを提供しています。これまでの「やめる」「とめる」「禁止する」だけではない治療的な関わりは、参加者の日々の関わりを振り返るきっかけになったのではないのでしょうか。問題行動を止める関わりだけでは医療者側も疲弊してしまいます。「楽しく遊ぶ」というツールを活用し、対話を重ね、一緒に活動することで患者さんのちょっとした変化をキャッチする。そして、その変化を分かち合うことできれば治療継続につながる。」と考えると、Sai-DATの取り組みは依存症治療を継続するための技法として有効ではないかと思いました。

交通のご案内



JR瀬田駅から

- ① バス(滋賀医大方面行き)
「大学病院」下車 徒歩10分
- ② タクシー 約15分

JR南草津駅から

- ① バス(草津養護学校行き)
「県立総合福祉センター」下車徒歩1分
- ② タクシー 約10分

自動車

新名神高速道路
草津・田上ICから約5分

外来診療のご案内

● 診療日:月～金曜日 ● 休診日:土・日・祝日・年末年始

令和8年3月現在の診療案内です。4月以降についてはホームページをご確認ください。

	月	火	水	木	金
精神科外来	三谷 石田 (千貫) (桐山)	辻本 (野口) (濱川)	有田 (金山)	松村 藤川 尾関(午前) 栗本(半日)	金山 増田 高橋 (野口) (濱川)
中・高生 こころの専門外来	桐山 畑本(章)	野口 畑本(有) 日指	(有田)	桐山	野口
依存症専門外来	千貫 (三谷)	濱川	千貫 金山 桂木		濱川 (金山)
内科外来	浅田	浅田	浅田	浅田	浅田

※…精神科全般：アルコールおよびその他依存症、中高生の精神疾患、発達障害に関する診察、その他精神科疾患の診察を行っています。(認知症・てんかんの診察はしていません。)

※…栗本医師の診察日については予約専用ダイヤルにてお問い合わせください。

※…担当医師については予告なく変更する場合があります。

完全予約制です

予約専用ダイヤルにお問い合わせください。

[予約専用ダイヤル] ☎ **077-567-5023** でお受けしています。

・受付時間:平日の9時から16時まで。

・緊急時は、代表電話:077-567-5001へおかけください。



滋賀県立 精神医療センター

〒525-0072 滋賀県草津市笠山八丁目4番25号

TEL:077(567)5001/FAX:077(567)5033

